

**ADVANTEST**

株式会社アドバンテスト

**2013年度 第2四半期  
決算説明会**

2013年 10月29日

All Rights Reserved - Advantest Corporation

## ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について  
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

**2013年度 第2四半期  
決算報告**

2013年 10月29日  
取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

# 業績概要

ADVANTEST®

(単位: 億円)

	2012年度				2013年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		前年同期比 (%)
						実績	前期比 (%)	
受注高	462	253	244	298	395	214	-45.8	-15.4
売上高	334	392	246	357	301	295	-1.8	-24.6
売上原価	158	187	116	179	148	160	8.1	-14.5
売上総利益	176	205	130	178	153	135	-11.4	-33.9
営業利益	8	26	-26	-7	-33	-47	-	-
営業外収支	5	-8	-4	-7	5	1	-71.1	-
税引前純利益	13	18	-30	-14	-28	-46	-	-
当期純利益	4	11	-34	-19	-36	-57	-	-
受注残	364	225	223	164	258	177	-31.5	-21.5

4

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/10/29

## ○ 2013年度第2四半期の業績概要

- 受注高 214億円 前期比 45.8%減
- 売上高 295億円 前期比 1.8%減
- 営業損失 47億円
- 税引前純損失 46億円
- 当期純損失 57億円

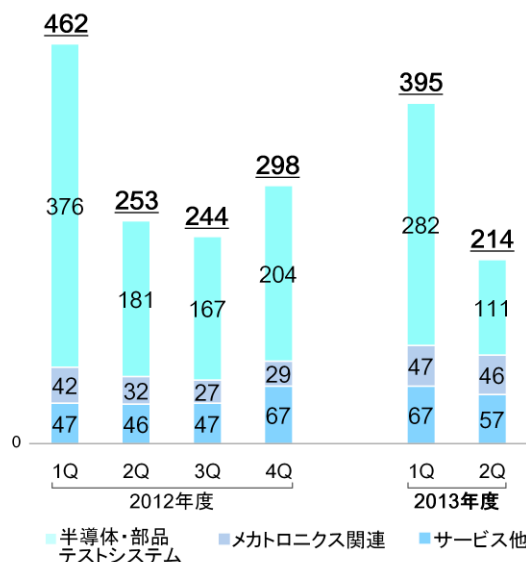
- 受注残 6月末から 81億円減少 177億円

## ○ 受注、売上の減少理由は次のスライド以降で順次説明する

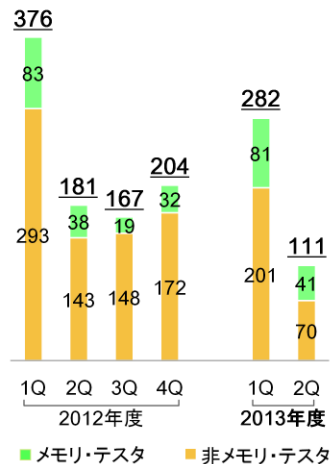
# 受注高 事業セグメント別

ADVANTEST

(億円)



【半導体・部品テストシステム内訳】



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/10/29

○ 2013年度第2四半期の事業セグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比61%減 111億円
- うち非メモリ・テスタ 70億円
- メモリ・テスタ 41億円

前年同期比、前四半期比、ともに大きく減少

- ・非メモリ・テスタについては、第1四半期に引合い好調だったハイエンド・スマートフォン関連の投資が急減  
ロジックIC向けの新規テスタ需要が、一転して大きく減少
- ・メモリ・テスタは、DRAM生産能力拡張投資が前四半期比で鈍化。ただし、前年同期に比べ市況の回復感強い

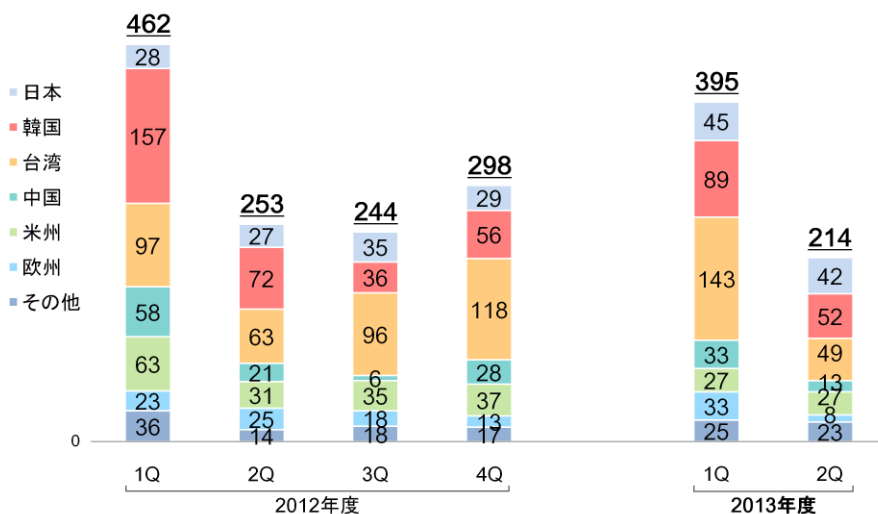
○ サービスその他事業

- ・前期比14%減 57億円
- 保守契約需要の季節性の一巡

# 受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST

(億円)

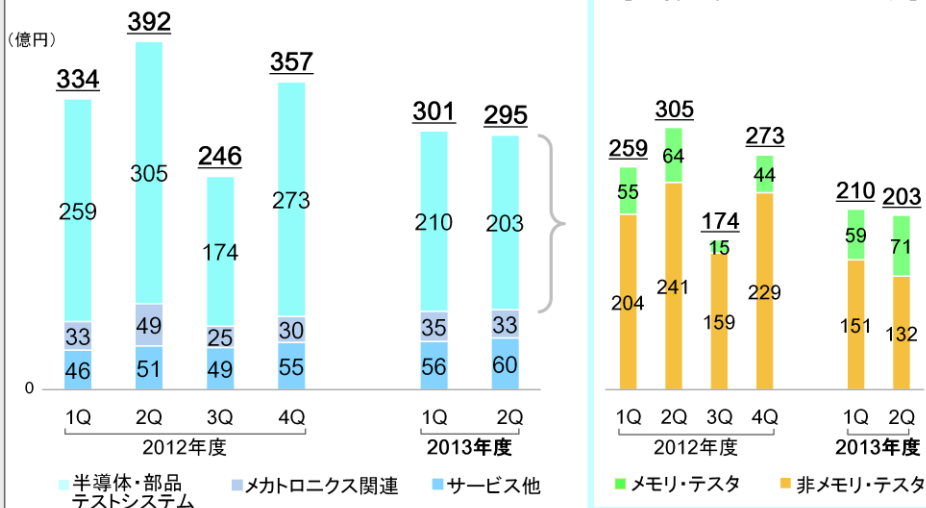


## ○ 2013年度第2四半期の地域別受注高

- 台湾  
スマートフォン関連需要の伸び悩みで  
ロジックIC向けテスト需要が減少
- 韓国  
DRAM能力増強投資の減少

# 売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/10/29

○ 2013年度第2四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比 3%減 203億円
- うち非メモリ・テスト 132億円
- メモリ・テスト 71億円

・先端ロジック関連投資が盛り上がった前年同期より大きく減少

・非メモリ・テストはLCDドライバICテストが増加したが、ロジックIC向けが減少

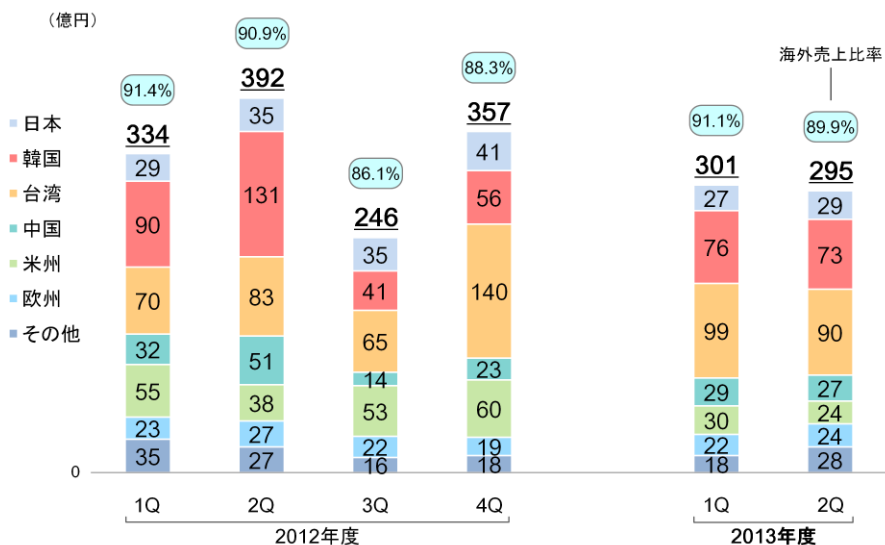
・メモリ・テストは第1四半期の受注増を反映し、売上増

○ サービスその他事業

- ・前期比7%増 60億円
- ここ数年のイントールベース拡大に伴い、サービスの収入水準が上昇

# 売上高 地域(出荷先)別

ADVANTEST®



## ○ 2013年度第2四半期の地域別売上高

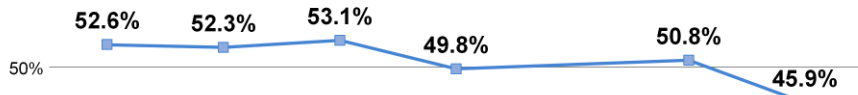
- 大きな四半期変動はない
- 前年同期比では、韓国でのロジックIC用テストの落ち込みが大きかったが、これもスマートフォン関連での需要減



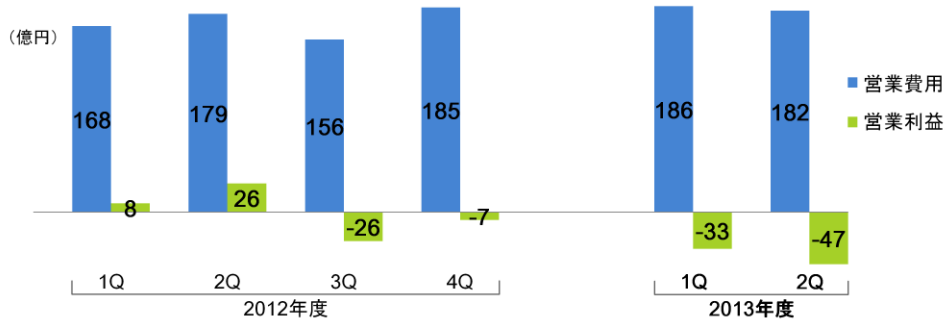
# 売上総利益率/営業費用/営業利益

ADVANTEST®

【売上総利益率】



【営業費用、営業利益】



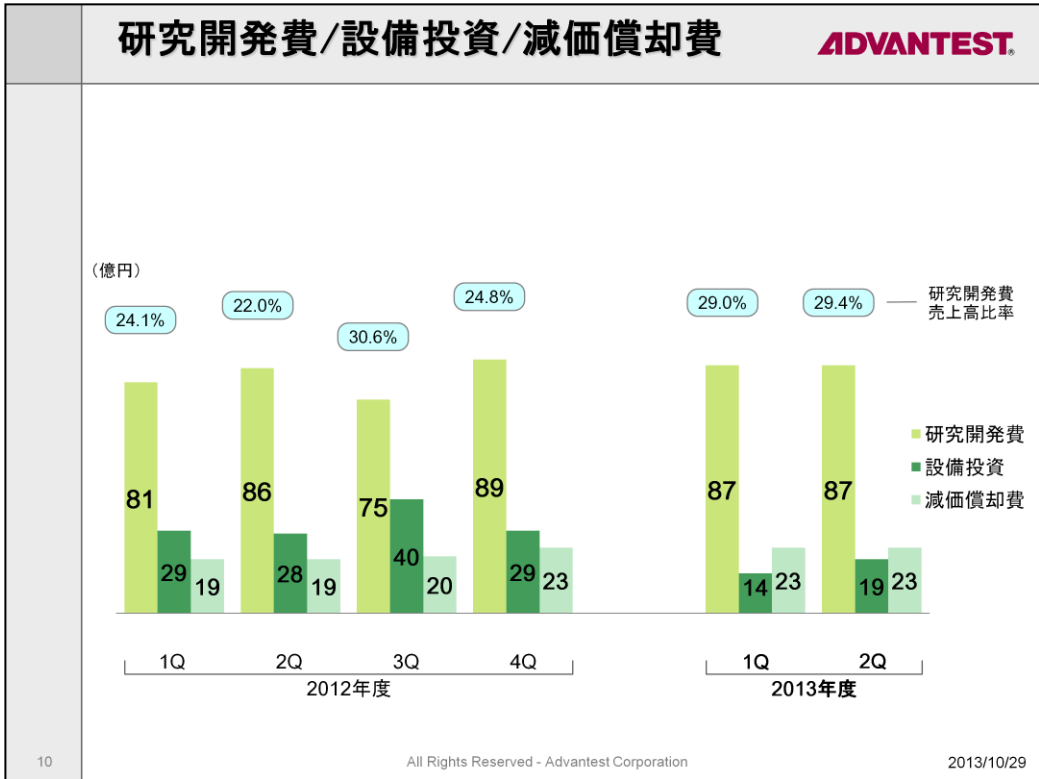
9

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/10/29

## ○ 2013年度第2四半期の営業利益について

- 売上総利益率 前期比4.9ポイント減 45.9%  
利益率が悪いいくつかの製品の売上構成比が上昇
- 営業損失 47億円

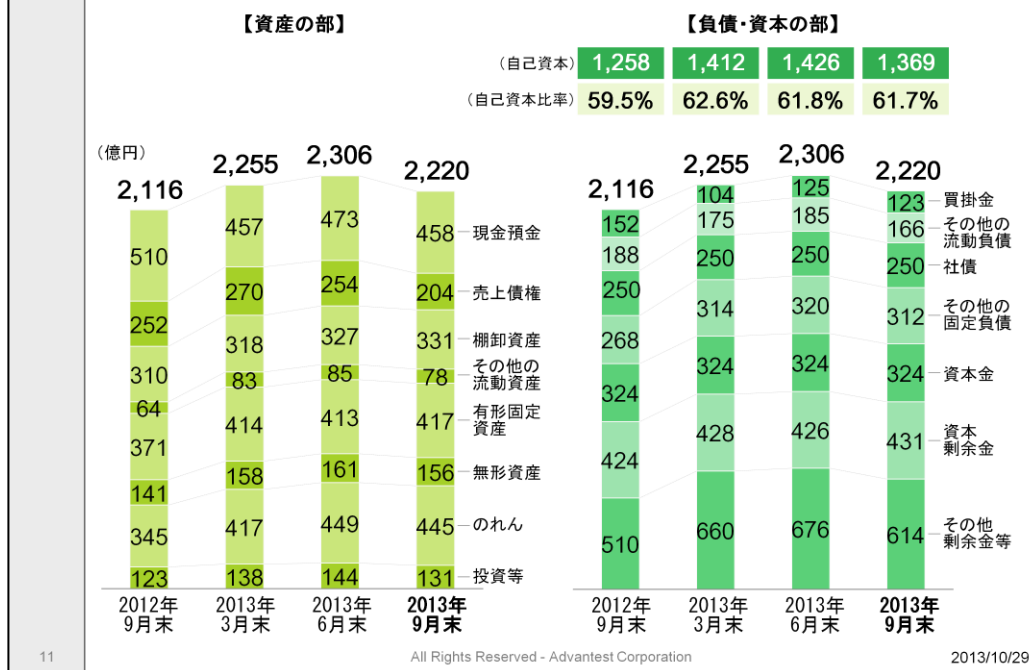


○ 2013年度第2四半期の営業費用の内訳

- 研究開発費 87億円
- 設備投資 19億円
- 減価償却費 23億円
- いずれも前期並みの実績

# バランス・シート

ADVANTEST



○ 2013年9月末時点のバランス・シート

○ 資産の部

・売上債権

2013年6月末比 49億円減 204億円

・総資産

2013年6月末比 86億円減 2,220億円

○ 負債・資本の部

・自己資本

2013年6月末比 57億円減 1,369億円

・自己資本比率は

2013年6月末から 0.1ポイント減 61.7%

2013年度第2四半期 事業アップデート

**“Keep Going”**

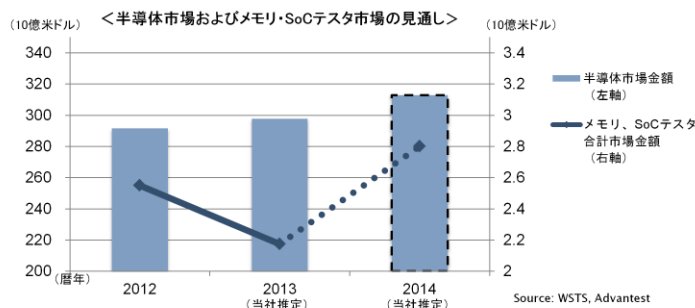
**—Technology is a Marathon, Not a Sprint Race—**

2013年 10月29日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

## ■ 全体

- 本下期から来年に向け、メモリ関連やロジック関連で大手半導体メーカーの設備増強が相次ぐ見通し
- 半導体の生産量拡大や技術進化に沿ったテスタ需要回復を期待

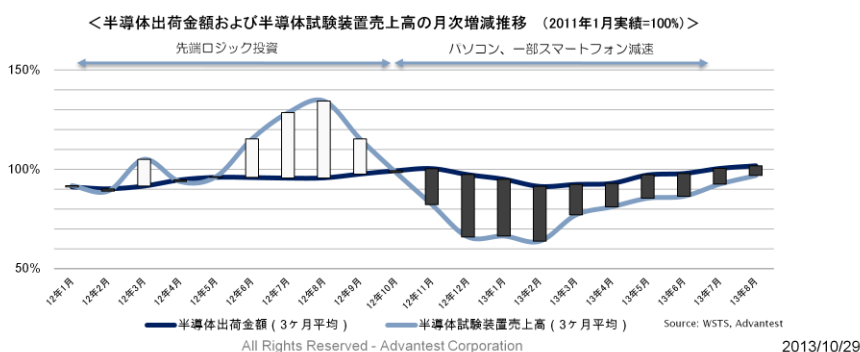


### ○ テスタ市場全体の見通しについて

- 2013年は、2012年に起こった先端プロセス向け投資の一服感とパソコン、スマートフォン需要の鈍化から、想定以上にテスタ需要が落ち込んだ
- 大手半導体メーカーが現在進めている前工程向けの設備投資の結果、半導体の生産量拡大や技術進化が、2014年に大きく加速するだろう
- メモリ関連では、3xnmから2xnmへの微細化進行、DRAM価格高騰などもあり、メモリ・テスタ投資意欲が高まっている。下期はまた、DDR4やLPDDR4の生産開始が予定されており、ハイエンド・テスタへの所要も期待される
- 非メモリ関連は、28nmから20nmなどへの微細化、およびワンチップ化が進行
- これらのような、微細化とチップ集積化に伴う、テスタ需要の本格的な高まりを今後予想している

## ■ 足元のテスト市場の状態

- 一部スマートフォンなど、最終製品の需要減速の影響を受け軟調な市況が継続
- ただし半導体市場とのギャップは縮小中



## ○ 足元のテスト市場の状態

- 歴史的に見て、テスト市場の成長率は、大手メーカーの先端設備増強と半導体生産量の増減に連動
- ここ1年は、技術的にも生産量的にもテスト市場の牽引力が強いスマートフォンやパソコン市場の成長が鈍った影響で、当社の顧客も投資に慎重な状態が続いた
- しかし、最終製品需要の下振れに伴うテスト市場の調整は、終息方向へ向かっていると分析
- 今後のテスト市場はポジティブな方向へ進む

## ■ メモリ・テスト事業

- 高シェアを武器に市況好転を活かす
- DRAM需給のタイト感継続。さらに、微細化に伴う生産能力増強に向けた動きも活発化
- 新型ゲーム機向けや次世代メモリ用で「T5511」など高速メモリ・テスト需要が今後上昇
- NANDフラッシュ向けでは、1xnm世代に向け新製品「T5831」拡販に手応え

NANDフラッシュ・メモリ用  
メモリ・テストシステム「T5831」



## ○ メモリ・テスト事業の見通しについて

- 昨年度比、大きく事業環境は改善している。  
2014年に向けて、DRAMでは3xnmから2xnmへの微細化、またNANDフラッシュ向けでも、1xnmへの微細化が進行し、今後の増産の流れが強まる
- 需給がタイトになってきたDRAM向けで、生産能力の増強に向けたテスト投資が活発になる見通し
- モバイル向けのDRAMでは、高速なLPDDR3への移行が下期より本格化。2014年には引き続き、DDR4、LPDDR4への移行も計画されており、テスト需要への期待が持てる
- 新型ゲーム機に搭載される高速メモリ、あるいは次世代メモリの試験に必要な高速メモリ・テスト需要も、規模は大きくないが今後上昇すると期待
- NANDフラッシュ向け市場では、7月に正式発表した新製品「T5831」で、シェア獲得に努めている。  
NAND向けテスト市場は今後伸びていく市場であり  
順次顧客獲得をはかる

**■ 非メモリ・テスト事業**

- ミッド/ローエンド・スマートフォン、ゲーム機が当面の需要を牽引
- ハイエンド・スマートフォン向けは2xnm世代への移行などで今後回復を期待
- デバイスの1チップ化進展で、ハイエンド・テストの需要が今後も伸長
- アプリケーション・プロセッサ以外の市場で新規顧客を着々と獲得。事業基盤の強化が進む



SoC・テストシステム「V93000」

**○ 非メモリ・テスト事業の見通しについて**

- 下期は、新興国向けのミッド/ローエンド・スマートフォンや新型ゲーム機向けが、当面の需要ドライバー
- 2xnm世代品の拡大、数量増により、在庫調整進展後のハイエンド・スマートフォン関連の需要回復に期待
- スマートフォン関連の半導体は、最終製品の価格帯に関わらず、高性能な半導体が採用されることが一般的。例えば、微細化によって、複数デバイスを1つに統合した高機能なデバイスが増えてくることで、当社のハイエンドテストの需要が伸びていくだろう
- アプリケーション・プロセッサ以外の市場で新規の顧客獲得が着々と進展。具体的にはRF、イメージセンサ、マイコン、車載、パワー系などの分野で、業績をさらに伸ばしていく基盤が強化されてきた



## ■ メカトロニクス関連事業

- テスト・ハンドラ(FA)事業  
半導体の狭ピッチ化で追い風
- デバイス・インタフェース(DI)事業  
メモリ関連投資の加速で事業環境改善
- FA、DIとも下期から旧Verigy製品とのシナジー具体化
- ナノテクノロジー事業  
EB露光新製品の引合い好調  
CDSEMの製品ラインアップ拡充



電子ビーム露光装置「F7000」

## ○ メカトロニクス関連事業について

- テスト・ハンドラは、ハイエンド・スマートフォンの下振れ影響で販売がここまでやや低調。  
しかし、下期から、モバイル用半導体の狭ピッチ化が進むため性能優位な当社ハンドラ製品に追い風が吹く
- デバイス・インタフェース製品は、今後メモリ関連投資が加速する中、市況の大きな改善を見込んでいる
- また、ハンドラ、デバイス・インタフェースどちらも今後旧Verigy製品とのセールスシナジーが本格化
- ナノテクノロジー製品は、これまであまり目立たなかったが、当社の電子ビーム関連技術は、フォトマスク向けCDSEMを中心に顧客から高い評価を得ている
- その技術を活かして、露光装置とCDSEMの2本柱で今後の事業拡大を目指している。  
露光装置については、1xnmノードに対応した新製品の引合いが好調、CDSEMも製品ラインアップを拡充中。  
シェア拡大が期待される

## 2013年度 業績予想

**ADVANTEST**

(単位: 億円)

	2012年度 実績	2013年度予想 ※9/25時点	通期 対前年増減額
受注高	1,257	1,485	228
売上高	1,329	1,430	101
営業利益	1	0	-1
当期純利益	-38	-25	13

※上記の売上高、営業利益、当期純利益予想は、9月25日に修正発表した業績予想と同一値です  
 ※9月25日に発表した修正業績予想の為替前提は、1米ドル=98円、1ユーロ=129円です  
 7月25日時点の通期業績予想の為替前提は、1米ドル=90円、1ユーロ=120円です

- ・ 経費節減を実施
- ・ 第4四半期以降の市況本格回復を想定
- ・ 配当予想:年間配当20円を据え置き  
(上期10円、下期10円予定)

18

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/10/29

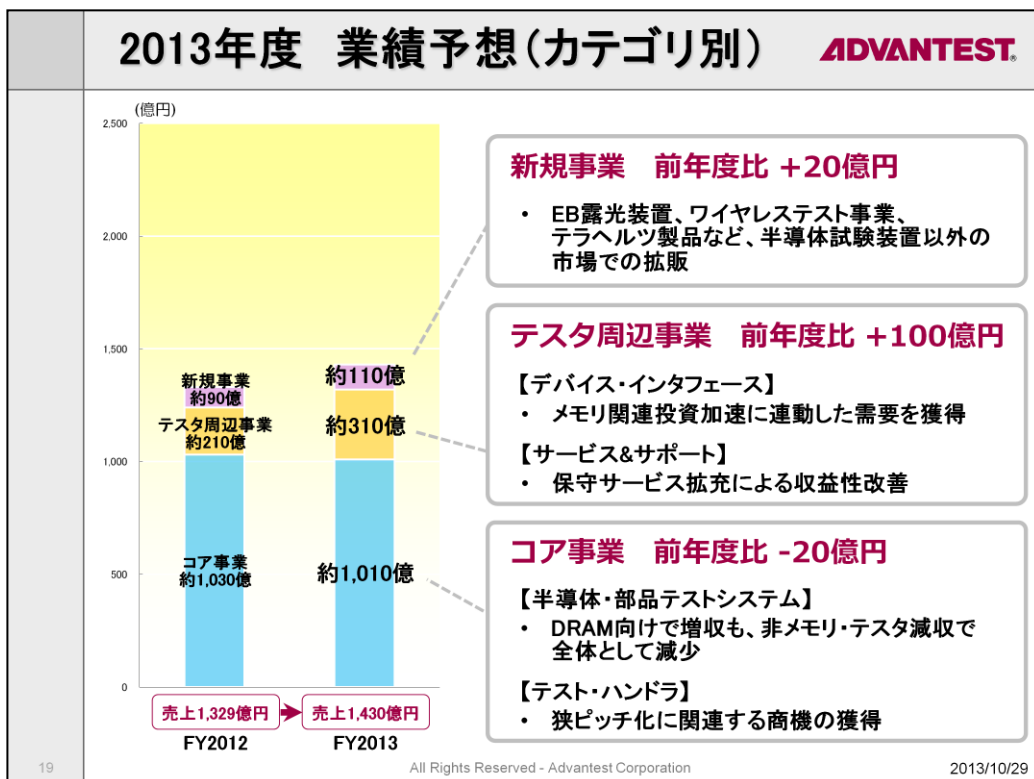
### ○ 2013年度の業績予想について

- ・ もともと今期はテスト市場の縮小を予想していたが、  
上期にスマートフォンが予想以上に軟調な動きとなったため、  
非メモリ・テストの需要も大きく後退。  
このため、修正業績予想を9月25日に発表

### ○ 現状の業績予想値は、9月に発表した内容から変更なく

- ・ 受注高 1,485億円
- ・ 売上高 1,430億円
- ・ 営業利益 0億円
- ・ 当期純損失 25億円
- ・ 為替レート前提は、期初の1米ドル=90円、1ユーロ=120円から  
足元の実勢値に沿った 1米ドル=98円、1ユーロ=129円へ変更
- ・ 為替感応度は、通貨別の売上増減により変動するが  
当社は海外オペレーションの比重が高く  
円安進行は必ずしもポジティブではない。  
現行の業績予想の前提では、1円変動時の年間での営業利益感応度が  
対ドルでプラス2億円、対ユーロでマイナス1億円の見通し

### ○ 一株当たり配当金は、安定配当を重視し、年間20円を据え置く予定



### ○ 3つの取り組み

- 当社は、最終製品やテスタ市場の動向に関わらず安定した収益を望める事業構造へ移していくため

①コア事業の強化 ②テスタ周辺事業の拡大 ③新規事業の育成

に取り組んでいる。

この3つの施策を今後も追求していく方針に変わりはない

- 今年度は、厳しい損益見通しを踏まえ経費抑制や設備投資見直しを、これまでより踏み込んだ形で実施するがこれらの達成のために不可欠な技術開発は、いわば長距離走。今後の成長市場を見極めた上、必要となる開発や将来への投資については、息長く、遠い目線で取り組んでいく
- その中で、この下期から、これまで商材の拡充を進めてきたデバイス・インタフェース事業とサービス事業を伸ばしていきたい
- どちらも、過去当社が蓄積したインストールベースを活用するストックベース型のビジネスモデル。これを伸ばすことは安定収益源の強化に直結し、また収益性も相対的に高位にあることから、全社収益への貢献度を十分見込める
- また新規事業についても、来期以降の本格化を目指してさまざまに取り組んでいく